

ベインキャピタル、外食大手すかいらーく買収で 野村プリンシパル等と合意

— 11 月末までにクロージング予定 —

グローバルなプライベート・エクイティファームで日本企業の競争力強化・復活の支援に注力しているベインキャピタルは本日、株式会社すかいらーくの株式を野村プリンシパル・ファイナンス株式会社等より取得する株式売買契約に調印しました。

これはベインキャピタルが管理・運営する株式会社BCJホールディングス6が、野村プリンシパル・ファイナンス、NPF-Harmony投資事業有限責任組合および中央三井プライベートエクイティ第一号投資事業組合より、すかいらーくの普通株式(議決権比率98.7%)および全優先株式を総額約1,600億円で買収するものです。

なお、残りの普通株式についても少数株主の皆様より取得し、すかいらーくの議決権の100%を取得することを企図しています。ベインキャピタルは、本取引の買収資金融資を、みずほコーポレート銀行、三菱東京UFJ銀行、三菱UFJモルガン・スタンレー証券、野村キャピタル・インベストメント、新生銀行、バンク・オブ・アメリカ・エヌ・エイ東京支店、BNPパリバ銀行、日本政策投資銀行、三井住友銀行、住友信託銀行等から調達します。

すかいらーく(本社:東京都武蔵野市、社長:谷 真)は和洋中をはじめ各種テーブル レストランを中核事業としてガスト、バーミヤン、ジョナサンなど約3600店舗超を展開する外食大手で年間約4億人のお客様が利用しています。

今回の取得はファンドによる日本企業の買収としては2008年のリーマン・ショック後で最大のもので、ベインの杉本勇次マネージング・ディレクターはその理由について次のように述べています。

「すかいらーくは外食産業の草分けでブランド力もあり、店舗数の規模、立地の良さ、明確なターゲットなど大きな可能性を秘めています。ベインの持つこれまでの外食業界でのマーケティングや管理手法を導入することでさらに収益増を図り、新たな成長戦略を実行に移せると確信しています」。

ベインは、日本において2006年に東京拠点を開設して以来、約20名を超すプロフェッショナルによる投資対象企業の企業価値向上に向けた取り組みを進めています。事業運営を現場レベルで支援し、着実な成長戦略で数々の価値向上施策を成功に導いた実績を有する数少ない投資会社です。ベインの日本における国内投資実績には、ベルシステム24、ドミノ・ピザ ジャパン、D&Mホールディングス、サンテレホン、MEIコンラックスの5社があります。世界の外食業界についても、米ドミノ・ピザに加え、バーガーキング、米ダンキンドーナツ、米アウトバックステーキハウスなどに対する投資実績があります。

株式会社すかいらーくについて

株式会社すかいらーく(<http://www.skylark.co.jp>)は、日本版ファミリーレストランの先駆けとして、1970年に東京都府中市に「すかいらーく」1号店をオープンして以来、積極的に店舗展開をはかるとともに、様々なブランドの開発に努め、多様化する消費者のニーズに応えるとともに「外食文化」を醸成する一翼を担ってきました。

現在、「ガスト」はファミリーレストランとしては唯一全国47都道府県に展開する主力ブランドに育ったのをはじめ、洋食の「ジョナサン」「トマト&オニオン」、和食・寿司の「藍屋」「夢庵」「魚屋路」、イタリアンの「グラッチェガーデンズ」、ステーキ・焼肉の「ステーキガスト」「旨っカルビ」、ブッフエスタイルの「フェスタガーデン」「パパゲーノ」「しゃぶ葉」、お持ち帰りで寿司・ケーキ・惣菜などを販売する「小僧寿し」「フロプレス テージュ」、寿司宅配専門の「札幌海鮮丸」など、グループ全体で30を超えるブランドを持っています。店舗数は平成23年9月30日現在、国内3,623店、海外では、台湾(加州洋食館 Skylark・Cafe Grazie・藍屋)、中国:上海市(Cafe Grazie)、米国:ハワイ州(小僧寿し)に43店にのぼります。

ベインキャピタルについて

ベインキャピタル(<http://www.baincapital.com>)は、国際的なプライベートインベストメントファームで、プライベートエクイティ、ベンチャーキャピタル、上場株やレバレッジローンなど、総額600億ドル以上に上る数種類のファンドを運用しています。1984年の創業以来、さまざまな業種にわたり、世界中で300社以上のプライベートエクイティ投資や追加的投資を行っており、300名を超える専門家チームがポートフォリオ企業への投資や経営支援に従事しています。ベインキャピタルは、本社をボストンに置き、東京、香港、上海、ムンバイ、ニューヨーク、ロンドン、ミュンヘンに事務所を開設しています。